

民俗芸能祭 ひょうご



県内各地から集まったさまざまな獅子舞が披露されます。

それぞれの獅子舞には、独自の衣装や音楽、演目があります。その違いを見比べながら楽しんでください！

おほしししまい
興治獅子舞
(三木市)



みなみそおかげらししまい
南僧尾神楽獅子舞
(神戸市)市登録



いぬかいししまい
犬飼獅子舞
(姫路市)県指定



あこうはらまんぐうししまい
赤穂八幡宮獅子舞
(赤穂市)県指定



日時

令和7年11月15日(土)

13:00~15:30 (開場12:30)

会場

三木市文化会館小ホール

兵庫県三木市福井1937番地

- 主催：兵庫県無形・民俗文化財保護協会
- 共催：兵庫県教育委員会
- 協力：兵庫県無形民俗文化財ヘリテージマネージャー会
- 後援：三木市教育委員会



おきほろししまい

興治獅子舞 (三木市)

興治獅子舞の歴史は古く、安政年間(1854-1860)に、土地の古老である山口全兵衛が指導したのが始まりと言われ、代々伝承してきました。他地区の神社氏子からも教えを受けに来たといわれ、周辺地区での獅子舞の元祖だと伝わっています。



五穀豊穡を祈願し、特徴は大きく重い雌の獅子頭を持ち、ゆったりと大きな動きで舞います。昭和40年代には人手不足により活動を停止していましたが、昭和50年に再開されました。

平成14年(2002)には、獅子の左右で獅子と共に小学生前後の子どもたちが舞う「囃し子」が「鈴の舞」など4演目で40年ぶりに復活しました。現在はその地を祓い清める儀式の「釜払い」と「鈴の舞」「へいの舞」「早替り」「ほらがえり」「志で」「下がり葉」「責獅子」「勇獅子」「花遊び」「谷かえり」の10演目が伝承され、熊野神社秋季例大祭にて奉納しています。以前は「東」「四方」「玉獅子」「つるぎの舞」がいましたが、継承は途絶えてしまいました。

祭りの本宮では猿田彦の化身のハナ(天狗)が先導し、興治の各家を回り、「釜払い」と氏神様に感謝の心を込めて捧げる「鈴の舞」を舞っていきます。おめでたい事がある家には、お祝いの心を込めて祓い清める儀式の「へいの舞」を舞います。

みなみそお かぐら ししまい

南僧尾神楽獅子舞 (神戸市)

南僧尾の獅子舞は、永正の頃(1504-1521)から南僧尾に居住していた能の一派の福王氏によって天正年間(1573-1591)に考案され、当地にある松尾神社と厳島神社に奉納されたものと伝わります。獅子の形態は近隣に類例が少ない雄獅子で、荒々しい動きが特徴で、7つの演目からなります。神楽獅子といいながら、中には「猿」や「お多福」に扮装した者が現れるユーモラスな演目もあり、観覧者と一体となって演舞を楽しませてくれます。奉納は毎年、敬老の日の前日に行っていますが、数年前までは9月12、13日の「播州こうど」と言われる日に行っていました。

農村地域である南僧尾は酒米の山田錦をはじめキヌヒカリなど優良なお米の産地です。最近聞かなくなりましたが、「二百十日」や「二百二十日」は日本は台風のシーズンであったため、風の祭りとも言い、収穫前に自然災害を避け五穀豊穡を願った事に始まります。祭礼当日、厳島神社では午後2時より神事が行われ、続いて獅子舞の奉納となります。獅子舞終了後、学力向上・健康長寿を願い、獅子に噛んでもらう所作があり、希望者の列が出来ます。神戸市の無形民俗文化財に登録されている獅子舞を南僧尾厳島神社でぜひご覧ください。



いぬかいししまい

犬飼獅子舞 (姫路市)

犬飼の獅子舞は、太鼓の経歴から少なくとも慶安元年(1645)には行われていたと言われています。また、伊勢太神楽の流れと言われています。神社奉納獅子舞(三種)の由緒として、「歌舞」「剣の舞」「四方舞」を三役と云い、氏神祭には本殿前で必ず舞うことになっています。犬飼獅子舞は「人身御供」を偲ぶ神楽として、神明神社に奉納され、他地域での公開は慎んできましたが、時代の移り変わりとともにその風習は解かれつつあります。



獅子舞は、当初17種類伝わりましたが、戦時中に青年層の多くが犠牲となり、伝承が一部欠けたことから、現在は13種類が伝承されています。

約50年ほど前までは、青年団が奉納していましたが、舞い手の高齢化のため、昭和50年(1975)に犬飼獅子舞保存会を結成し伝承を図っています。昭和52年(1977)に兵庫県重要無形民俗文化財の指定を受け、平成5年(1993)に兵庫県ともしびの賞を受賞しました。先輩方の伝承に恥じないように、また、少子化による人手不足にも耐えながら、今後も皆で協力しながら盛り上げていきます。

あこうはらまんぐうししまい

赤穂八幡宮獅子舞 (赤穂市)

赤穂八幡宮獅子舞は、浅野長矩公の祖父浅野長直公の時代、寛文元年(1661)に始まりました。現存する古文書では、「八幡宮神幸式次第」の貞享5年(1688)に記述されています。八幡宮のご分霊をのせた神輿三基の前方に、頭人行列とともに供奉してお旅所である宝崎神社まで往復します。

祭り当日は、貞享5年(1688)につくられた本太鼓を使用し、太鼓の音のみで「道中舞」「神楽舞」を舞います。笛・鐘は一切使用しません。鐘をもったハナダカ(鼻高)雌雄二頭が、太鼓の音にあわせ、足を交互に上げて、道中を進みます。獅子は雌雄二頭が、前後に別れ、メンタ(雌)が先に、オンタ(雄)があとに続きます。獅子の衣裳は、紺色がメンタ、茶色がオンタです。行列の神輿が鳥居を通る前に、メンタの獅子が肩車をして、鳥居を8の字を描くように回ります。お祓いの意味があります。また神輿を鎮める場所では、ハナダカと獅子が絡む神楽舞を奉納します。獅子舞を指導する「宰領」は、羽織・袴を着用します。

昭和43年(1968)に尾崎獅子舞保存会が結成され、平成8年に赤穂市指定無形民俗文化財、平成17年に兵庫県重要無形民俗文化財に指定されました。



兵庫県無形・民俗文化財
保護協会とは

兵庫県内の無形文化財と民俗文化財の保存団体が加盟している団体です。無形・民俗文化財の保護と普及・啓発を目的として平成12年に設立されました。獅子舞・鬼追い・田楽・風流踊りなど多くの団体が加盟しています。

お問い合わせ

兵庫県無形・民俗文化財保護協会事務局 兵庫県教育委員会事務局 文化財課内

TEL: 078-362-3783 URL: <http://hyomuminkyo.jp/>

